

卒業時コンピテンシー

東京医科歯科大学医学部医学科は卒業時に修得しておくべきコンピテンシーとして7領域90項目を規定しています。

I 国際人としての基礎

- 1 健康/医療/歯科医療に貢献する者として必要な、幅広い教養と豊かな感性を持つ。
- 2 世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる。
- 3 医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する。

II 医学/科学の発展への貢献

- 1 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
- 2 基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる
- 3 未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。
- 4 臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる
- 5 自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる

III プロフェッショナリズム

- 1 他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
- 2 専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる
- 3 専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる
- 4 患者側要素に配慮した最適なアプローチにて常に良好な医師・患者関係を築くことができる。
- 5 患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる。
- 6 医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる。
- 7 診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる。
- 8 患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)における適切な距離を維持することが困難な場合あるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる。
- 9 個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる。
- 10 自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる。
- 11 臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる。
- 12 メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる。
- 13 医療従事者の健康管理(予防接種を含む)を実践できる。
- 14 時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。
- 15 文書課題を、正確で判断しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。
- 16 本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる。
- 17 常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる。
- 18 他者への良識を遂げる振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる。
- 19 医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導・監督者に報告できる。
- 20 他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる。
- 21 患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。
- 22 臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に関与することができる。
- 23 記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
- 24 利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる。
- 25 企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる。
- 26 自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。
- 27 自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる。
- 28 他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる。
- 29 ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる。

IV コミュニケーション

- 1 口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる。
- 2 様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメント・プランを考察し提示できる。
- 3 診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れことなく作成することができる。
- 4 多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる。
- 5 診療の引き継ぎ(ローテーション終了時、転科、転院等)に際して、引き継ぎ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。
- 6 患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる。
- 7 重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)についての患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する。
- 8 監督・指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列挙・整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる。
- 9 患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を理解し対処できる。

V 知識とその応用

- 1 基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる。
- 2 頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる。
- 3 様々な症候/問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる。
- 4 様々な疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を診療に応用できる。
- 5 社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる。
- 6 世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる。
- 7 頻度の高い疾患についての予防戦略についての知識を診療に応用できる。
- 8 住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる。
- 9 歯科医学的側面を考慮した診療ができる。

VI 診療の実践

- 1 全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる。
- 2 臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる。
- 3 臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる。
- 4 臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる。
- 5 適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる。
- 6 監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる。
- 7 診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる。
- 8 適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる。
- 9 実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる。
- 10 臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況(例、急性疼痛、高齢、小児、術前など)に応じた病歴を聴取できる。
- 11 救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる。
- 12 身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で滑らかに効率よく行える。
- 13 高齢者の機能的評価を行える。
- 14 小児の成長/発達の評価を行える。
- 15 状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える。
- 16 診察において異常所見を認識・説明・記録でき、必要な病歴・診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる。
- 17 コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる。
- 18 初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる。
- 19 日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に記したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる。
- 20 再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に記したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる。
- 21 監督・指導のもとで、急性・慢性疾患を患う患者の、外来・病棟診療での管理ができる。
- 22 安全で質の高い医療の提供の為に、状況に応じて指導医による監督・指導の必要性を適切に判断でき、求めることができる。
- 23 監督・指導のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる。
- 24 診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる。
- 25 感染に対する標準予防策(Standard precaution)にしたがい、清潔操作を行うことができる。
- 26 感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる。
- 27 針刺し事故、針刺創傷等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる。
- 28 医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる。

VII 様々な制度・資源を考慮した診療

- 1 医療機関内インフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる。
- 2 多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる。
- 3 臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる。
- 4 様々な情報源(かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など)から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる。
- 5 医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる。
- 6 医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる。
- 7 医療政策の有効性が吟味でき、診療への影響を説明できる。



国立大学法人
東京医科歯科大学